

戦争と人権の21世紀がはじまった

◆私の注目点

2001年といえば、アメリカ同時多発テロ事件(9.11)がおきた年だ。もともと神奈川県は沖縄県に次いで在日米軍基地の面積が多いことで知られる。また、戦前は陸海軍の策源地だった歴史を持ち、それらの土地を引き継いだ自衛隊基地も多い。そうした土地柄ゆえ、以前から種々の基地問題を抱える地域がたくさんある。そのような県に、9.11ほどのような影響を与えたのか。それを探るために、この記事で「国際・国内」の категорияで集中的に取り上げてみた。

他方、私は現代を「人の命(人権)が重くなった時代」ではないかと考えている。昭和の時代には多くの人がおざりにされていたプライバシー保護、いじめ、医療過誤など、多様な問題がこの視点で一括できるはずだ。そして、この傾向は既に20年以上前から始まっていたのではないか。そこで、こうした記事を「その他」の категорияに集めてみた。

◆こんな事がありました

2002年8月、多摩川の丸子橋付近にアゴヒゲアザラシが出現。以後、東京や埼玉の川を転々とした末、翌年4月に荒川に出現したのを最後として、以後行方が分からなくなる。

◆年表作成を通して考えたこと・感じたこと

さまざまな期待をもって始めた作業ではあったが、残念ながら思った通りに進まず、自分としては悔いの残る結果となった。その辺りのことは自由記述のページで考えてみたい。

【キーワード】

- 9.11
- イラク戦争
- テロ対策特別措置法
- 在日米軍再編
- 厚木基地騒音訴訟
- 池子米軍住宅地区
- 北朝鮮拉致
- 旧相模原海軍工廠跡地
- みなとみらい線
- タマちゃん

【出典について】

- 出典は『神奈川新聞』の各年末特集だけなので、各項目にいちいち注記しなかった。各年末特集の発行日は下記の通り。
 - 神奈川新聞 2001(平成13)年:2001年12月29日付、16-17面「2001主な出来事」
 - 神奈川新聞 2002(平成14)年:2002年12月29日、18-19面「2002主な出来事」
 - 神奈川新聞 2003(平成15)年:2003年12月29日、6-7面「2003県内主な出来事」
 - 神奈川新聞 2004(平成16)年:2004年12月29日、12-13面「2004県内の主な出来事」

① **はじめに**：これまでを振り返ってみると、以下の3つに悩まされた数ヵ月だった。

1. ゴールが見えない／時間が足りない (作業量の予測不可能性)
2. 何を求められているのかよく分からない (コミュニケーションの問題)
3. 今自分がやっていることは研究なのか? (課題に潜在する本質的な問題点)

今回の募集にあたって主催者により掲げられた目的は「学びのきっかけ・気づきを始点に、読み、深め、活かす」(神奈川県立図書館『「Lib活」はじめます!』)というものだ。そして、それを実現する方法として与えられたのが、「神奈川新聞の年末特集から記事を選択、それを起点に調査し、自分なりの年表をつくる」ことだった。

当初、これは目的にかなった良い方法と思えた。しかし、実際に取り組んでみると、落とし穴がいくつもあることが分かった。

② **記事の入力をめぐって**：まず私が戸惑ったのが、100以上もの記事を自分でスプレッドシートに入力しなければならないことだ。あえて言わせていただければ、これは非人間的な作業であり、できれば避けたいと思った。そこで複写物からデジタル化する方法を種々探してみたが失敗し、かえって持ち時間を減らすことになってしまった。(なお、主催者は記事を著作権法32条「引用」として利用する意図だったと思われるが、同法10条2項「事実の伝達にすぎない雑報」と解釈できないか。その場合、著作物ではなくなるので、テキスト素材としてあらかじめ参加者に配布可能になる)

③ **カテゴリーの恣意性について**：次に困ったのがカテゴリー分けの意図が分からず、記事をどのように分類してよいか見当が付かなかったことだ。結局分類は作業者に委ねられたと割り切り、自分でいくつかのサブジャンルを設定、それをカテゴリーに紐付けた。

- 国内・国際：安全保障、基地問題
- 政治・行政：県政、公の不祥事
- 財政・経済：倒産・リストラ、流通・交通、オープン
- 社会・文化：事件、歴史問題、スポーツ・イベント、文化財
- その他：命と人権、個人情報、表現の自由、NPO、北朝鮮

④ **年表の1項目の文字数は70字**：上述のように時間を空費してしまった私が、ようやく4年分の記事を入力し終えたのは、すでに3月8日午前だった。当然、記事を深掘りする時間など残されていない。ここで主催者から項目1つの文字数は、今まで100字だったのを70字に変更すると発表され、止めのショックを受ける。結局、これは半ば無視させていただくことにした。何故ならばとても修正する時間などないからだ。

⑤ **「神奈川新聞社WEBマイクロフィルムサービス」はデータベースではない**：この時点での私の年表の問題点は、1項目ごとの日付は神奈川新聞年末特集にあるもので、必ずしも出来事があった日付といえないことだった。そこでせめて元記事を探し、修正しようと考えた。新聞記事データベースでキーワードを設定して検索すれば、100以上の記事でも数日で確認を終えられるだろう。しかし、その目論見もあえなく外れる。神奈川新聞のものは紙面画像を日付順に並べただけのもので、キーワード検索はできない。これでは紙の縮刷版の方が一覧性に優れるだけまだ高機能だ。これが3月11日のこと。

- ⑥ **年表の日付は出来事のあった日ではなく記事の掲載日とする**：元記事にあたる時間もな
いとなると、これでは年表といえるかどうか怪しい。そのような代物なのに、どの面を
下げて提出できよう。私としては本気で撤退を決意したが、熟慮の末に抜け道を見つけ
た。表紙において、出典は神奈川新聞の特定の記事であり大きな変更は加えていない
(つまり日付は記事にあるものと同じ)と宣言するのだ。客観性の観点からは大いに疑
問はあるが、ロジックとしては(一応)一貫している。もちろん後味は悪い。このよう
なものを提出する自分の非力を痛感している次第だ。嗤うべし、嗤うべし。